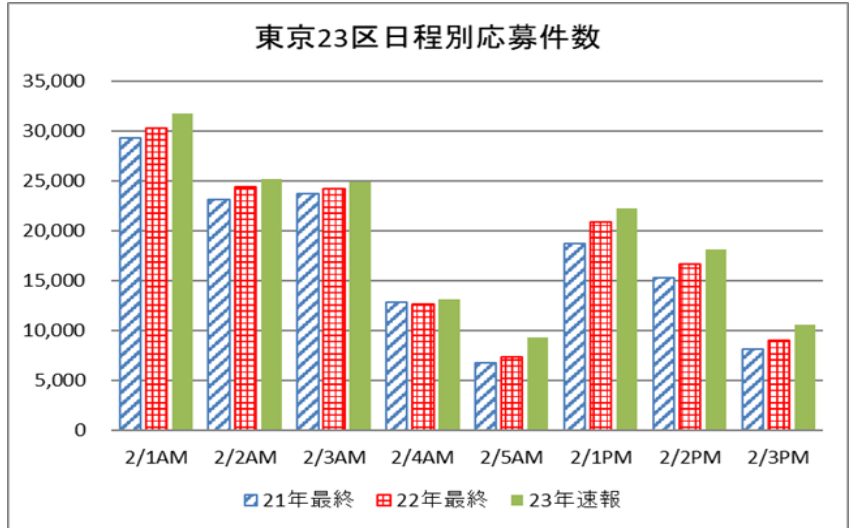


東京23区私国立中入試概況

1. 概況 今年も中学受験は拡大、都心志向が強まる

東京23区の公立小6児童数は義務教育学校も含めて約64,400名で昨年並みです。東京23区内の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、2月28日現在、1月までの帰国入試を含めて168,400名あまりです。昨年の最終が約158,300名でしたから、今年も増加が続いています。多摩地区は応募者が減っていて、同じ2月1日開始の神奈川県は小幅の増加に留まっていることから、東京都心志向の強まりでここまで応募者が増えたのでしよう。



入試結果未公表の学校や、コロナ禍対応の追加入試、二次募集を行う学校もあり、最終的にはこれらの応募者数が上乗せされます。また受験者数や合格者数を公表していない学校もありますが、ここまでの集計では受験者総数は約120,500名で、昨年の最終より6%弱増えていますが、合格者総数は約41,900名で昨年の最終よりやや増えています。合格者数にはコース制実施校での入り易いコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格が含まれていない学校もありますから、「入学できる」合格者はもっと多くなりますが、受験者数が増えているのに合格者数があまり増えなければ入試が難しくなるのは当然で、今後未公表校の数字が上乗せされれば合格者数は増えますが、厳しい入試だったと言えます。

上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方校の入試は含んでいません。応募総数では2月1日午前が最多で、昨年よりも5%、1,500名弱の増加です。1日午前には多くの受験生が第一志望校に挑戦する日ですから、23区内の中学受験の拡大を示しています。2番目は2日午前、3番目が3日午前ですが、僅差です。2日午前は昨年よりも800名弱の増加、3日午前は700名弱の増加

に留まっていて、どちらも約3%の増加ですから、1日午前ほどは増えていません。4日午前、5日午前になると応募総数は3日午前までと比べると小さな規模で、1日午後や2日午後よりも少なく、今年も多くを受験生が3日午前までに受験を終了しています。ただ、5日午前には昨年より2,000名以上増えていて、早い日程での不合格者の再挑戦が昨年よりも増えていることがわかります。

午後入試は、グラフのように1日午後、2日午後、3日午後とも応募者数が増えており、1日午後、2日午後、3日午後とも約1,400~1,600名増加していて、特に3日午後には1日午後や2日午後の不合格者の再挑戦の受験生が増えていることがうかがえます。

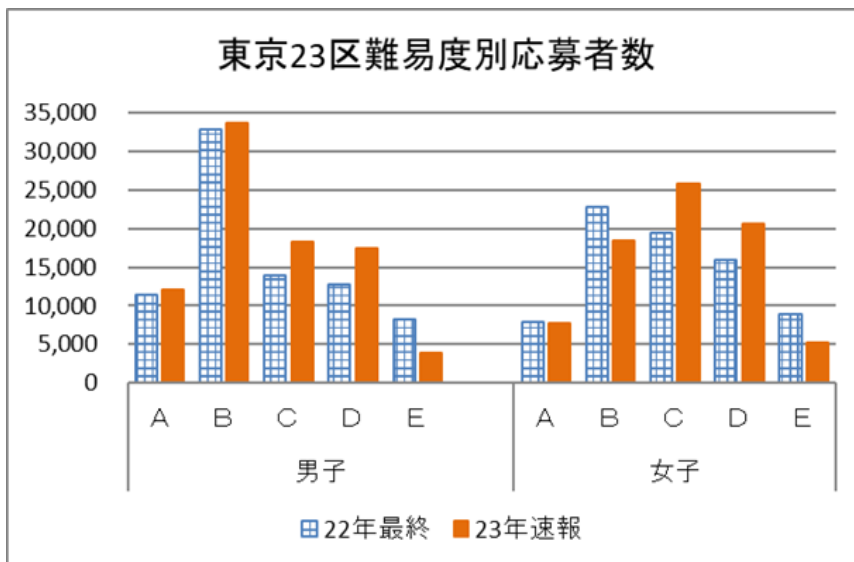
難易度別の応募総数の推移も見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。Aは難関校、Bは上位校、Cは中堅校、Dはやや入り易い学校、Eは入り易い学校です。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年を受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応

募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年の用予想難易度、今年は今用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。グループの学校は17ページに一覧で表示しました。

男子はBグループの応募者が一番多く、応募総数の約4割を占めていて、難関校のAグループとともに少し増えています。一方、中堅校のCグループ、やや入り易いDグループは大きく増えています。このうち、Cグループについては中学受験拡大の中心で、上位校希望の受験生の押さえとしての受験が増えての結果ですが、Dグループの増加は、Eグループの減少とセットで考える必要があります。通常の年ならDグループ校の人气が上がり、入り易いEグループ校の人气が下がって敬遠された、と解釈したいところですが、そもそも昨年までの中学受験拡大でEグループ校でも難化した学校が出て、レベルアップしたことでEグループ校が減ったため、応募者数も減ったわけです。代表的な事例は、東京女子学園が共学化して4,000名以上の応募者を集めた芝国際で、芝国際ほど大規模でなくても、学校改革などで人气が上がってEグループから外れた学校もあります。DグループとEグループを合計した応募者数は約400名増えています。

女子は難関校のAグループが微減です。昨年は男子ほどではないにせよBグループが最多で、Cグループ、Dグループも男子よりも選ばれていましたが、今年はBグループが減って、C・Dグループが大きく増加、Eグループが減っています。Dグループが減ってEグループが増えたことについては男子で述べたことと同じ理由ですが、Bグループが減ってCグループやDグループが増えた理由は、安全志向もあります。特に今年の受験生は小4からの3年間、コロナ禍で十分学校見学ができていないこともあって、挑戦を控えるような学校選択が増えているようです。

以下、男子校、女子校、男女校の順で各校の状況を見ていきます。都立・区立の各校は、公立一貫校のPDFをご覧ください。



2. 男子校

<難関校~中上位校>

まず男子御三家から。開成の応募者数は昨年まで安定傾向が続いて、昨年も若干減っただけで目立つほどではありませんでしたが、今年は増加しています。受験生の挑戦志向が復活してきた面もありますが、コロナ禍で減っていた関西などの進学塾からの挑戦組も戻ってきました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで実質倍率は上がっています。合格最低点は上がっていて、出題内容との関係はありますが、少し難化したと考えてよいでしょう。

麻布の応募者数は隔年的に増減していて、今年は順番通り減りましたが、小幅の減少に留まりました。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は昨年並みです。合格最低点も若干上がったものの、昨年並みと言ってよい水準で、今年も高難度の入試でした。武蔵も隔年的に応募者数が増減していて、やはり順番通り今年は減っています。実際の受験者数も減っていて、合格者数は昨年並み、合格最低点も昨年並みです。同校も難度に変化はなさそうです。

御三家と並ぶ難関校の駒場東邦は、一昨年まで3年間応募者の増加が続きましたが、昨年は減って、今年は増えています。麻布や武蔵のようなタイプと、同校とどちらを選ぶかにおいて、同校を選んだ受験生が増えた面もあるのでしょうか。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は大きく上がりました。昨年は下がっていて、出題内容を調整した面はありますが、少し難化したようです。国立の筑波大駒場は、一昨年は応募者数が前年並み、昨年は減少、今年は増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格

者数は昨年並みです。実質倍率は上がりました。合格最低点は下がっていますが、出題内容との関係でしょう。今年も高難度の入試でした。

海城の各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と概ね前年並みが続きましたが、今年は増加しています。1月の帰国生入試は昨年並みですが、一般入試は2月1日午前の1回、3日午前の2回とも増えました。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は帰国生Aが上がっていますが、得点分布の関係でしょう。1回は昨年並みで、2回は少し下がりましたが、出題内容との関係で、全体的に難度は昨年並みだったようです。

早稲田は、一昨年は2月1日午前の1回、3日午前の2回とも応募者数が減少、昨年は1回がやや減、2回はやや増えていて、今年は1回、2回とも増えました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は1回が少し増えて、2回が少し減り、合計では昨年並みです。合格最低点は1回上がり、2回下がりましたが、小幅の変化です。出題内容との関係がありますが、あまり難度に変化はなかったようです。なお、同校は2024年度から帰国生枠を取りやめる予定で、帰国生も4教科受験することになります。

暁星は長い間2月3日に1回だけの入試でしたが、2020年から一般入試と同時に進んでいた帰国生入試を12月に独立して実施、一般入試も2月2日午前の1回と3日午後の2回の複数回実施としました。この結果、各回次合計の応募者数は大幅に増加、一昨年は1回、2回とも応募者が減り、昨年は再び増加と隔年的な変化になっていて、今年は順番通り減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は増やしていて、合格最低点は1回下がっていて、2回も少し下がっています。出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったようです。

芝は、一昨年は2月1日午前の1回が前年並みの応募者数、4日午前の2回は前年に続く減少で、昨年は1回が少し増えて2回は少し減り、合計では昨年並みでした。今年は1回が増えて2回はかなり増えています。実際の受験者数は1回が昨年並み、2回は増えて、合格者数は1回が昨年並み、2回は減りました。合格最低点は1回、2回とも少し下がっています。出題内容との関係はありますが、1回の難度はあまり変わっていないようで、2回は少し入り易くなったかもしれません。

成城は、各回次合計の応募者数が一昨年は減少、昨

年は増加、今年は減少と隔年的に変化していますが、今年も小幅の減少です。実際の受験者数もやや減っていますが、合格者数は昨年並みです。2月1日午前の1回の合格最低点は昨年並み、3日午前の2回、5日午前の3回は少し上がっていて、1回の難度は変わっていないと思われませんが、2回と3回はやや難化したかもしれません。

城北は、一昨年は2月1日午前の1回が前年と同数の応募者数、2日午前の2回は減って、4日午前の3回は少し増えていて、昨年は1回と3回が減って2回は少し増えています。今年も各回次とも増えています。実際の受験者数も各回次とも増えていて、合格者数は1回、2回が昨年並み、3回は増えました。3回は合格最低点がやや下がっていますが、出題内容との関係でしょう。1回と2回は上がっていて、全体的には少し難化したようです。

巣鴨は一昨年、昨年と各回次とも応募者が減っていましたが、今年も2月1日午前の1回が昨年と同数、1日午後の算数と4日午前の3回が少し増えていて、2日午前の2回は増えました。人気は上がっていますが、2回は後述の東京都市大付属の日程変更も影響しています。実際の受験者数は1回と算数が厳密には減ったものの昨年並み、2回は増えて3回もやや増えています。算数と2回は合格者数が増えています。1回と3回は昨年並みでした。合格者最低点は3回が少し上がってやや難化したようです。他の回次は昨年並みで、難度に変化はないでしょう。

本郷は2021年度から高校募集を停止していて、完全中高一貫の体制になっています。一昨年は各回次の合計の応募者数がやや減っていて、昨年は回次によって増減はありますが、合計では前年並み、今年も各回次とも増えています。同校も、人気の動きだけでなく、後述の東京都市大付属の日程変更の影響が出ています。実際の受験者数も増えていますが、2月1日午前の1回と5日午前の3回の合格者数は昨年並み、2日午前の2回は増えていて、合格最低点は1回がやや上がって少し難化したようです。2回と3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

東京都市大付属は、I類、II類の類型制で、1月の帰国生入試のほか、昨年までは1回が2月1日午後、2~4回が2日午前、4日午前、6日午前で入試を行っていましたが、今年も1日午前に進出、1日午後を2回とし、3回と4回は3日午前、5日午前と1日ずつ前倒しにしました。1日午後の新2回は2科4科選択から2

科に変更、各回次の定員配分も見直しました。各回次合計の応募者数は都内男子校のトップを続けてきただけに、この変更は他校にも大きな影響を与えていて、世田谷区の学校ですが、前述のように山手線沿いの巣鴨や本郷にも影響が出ています。今年の各回次合計の応募者数は減っていますが、それでも今年も都内男子校のトップです。Ⅰ・Ⅱ類合計で新設の1日午前の1回は、昨年の2日午前より大幅に応募者が減少、日程変更がない1日午後は2科4科から2科になりましたが合計では微増、4日午前から3日午前になった3回は同時実施のグローバル入試を含めて昨年並み、6日午前から5日午前になった4回も昨年並みでした。実際の受験者数、合格者数は各回次合計で少し減っていて、合格最低点は新1回が2日午前だった昨年の2回とほぼ同じ、他の回次も昨年並みで、出題内容との関係はありますが、Ⅰ・Ⅱ類とも難度は変わっていないようです。

世田谷学園は一昨年、理数コースを新設し、理数と本科の2コース制になりました。昨年までの4年間、各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今年はさらに増えました。日程別では理数・本科合計で2月1日午前の1次は減り、1日午後の算数、2日午前の2次、4日午前の3次が増加していて、前述の東京都市大付属の日程変更の影響を受けています。実際の受験者数も応募者数と同傾向で、合格者数は各回次の理数・本科とも昨年並みですから、1次は実質倍率がやや緩和、他の回次は倍率がアップしています。合格最低点は理数の1次が下がり、本科の2次がやや上がっていて、難度も少し変化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度は変わっていないようです。

攻玉社の各回次合計の応募者数は隔年的に変化していて、今年は順番通り減っています。日程別では1月の国際学級と2月5日午前の特別選抜が減少の中心で、1日午前の1回はやや減、2日午前の2回は昨年並みです。隔年的な変化のほかにも、特に1回と特別選抜は東京都市大付属の影響も見られます。国際学級と2回は合格最低点が下がっています。国際学級は出題内容や得点分布の関係で、難度に変化はなさそうです。2回はやや入り易くなったかもしれません。1回は昨年並みで、難度も昨年並みでしょう。特別選抜は上がっていて、出題内容との関係はありますが、少し難化したようです。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院は安定した応募者数が続いていましたが、一昨年はやや減り、

昨年は増えて、今年は昨年並みです。実際の受験者数、合格者数も昨年並みで、合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。立教池袋の各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と少しずつ減っていましたが、今年は増えました。コロナ禍の影響もあって12月の帰国生入試は減っていますが、2月2日午前の1回、5日午前の2回とも増えています。実際の受験者数も同傾向で、合格者数、合格最低点は各回次とも昨年並みで、補欠も出ていますから、難度は昨年並みだったようです。

明大中野の2月2日午前の1回は、一昨年は応募者が少し増えて昨年は前年並み、4日午前の2回は一昨年が増加、昨年は減っていましたが、今年は1回、2回とも減りました。後ろの<中上位校~中堅前後の各校>で取り上げる日本学園が明治大学の附属校になることが決まって、明大中野を挑戦で狙おうとする学力層の受験生の一部が、より安全を考えて同校に流れたためです。実際の受験者数も減りましたが、合格者数も合格最低点も1回、2回とも昨年並みで、例年なら不合格になる学力層が減っただけの結果でした。当然難度に変更はなかったようです。

学習院の応募者数は、一昨年は帰国生入試と2月2日午前の1回が前年並み、3日午前の2回は少し減っていて、昨年は各回次ともほぼ前年並みでした。今年は帰国生が少し増えて、1回と2回は減っています。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は各回次とも昨年並みです。合格最低点は1回が昨年並み、2回はやや上がっています。2回は出題内容の関係でしょう。難度は各回次とも昨年並みだったようです。

<中上位校~中堅前後の各校>

日大豊山は附属校カラーの強い学校です。一昨年は前年に続いて各回次合計の応募者数が増加、難化傾向でしたが、少し敬遠ムードが出ているようで、昨年、今年と減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は少し増えていて、平均の実質倍率は少し緩和しました。2月1日午前の1回は合格最低点が上がっていて、難化傾向が続いたことで志望順位が高い受験生の学力水準が上がった影響でしょう。他の回次の合格最低点は昨年並みか、やや下がっていて、少し入り易くなったかもしれません。

日本学園は現在附属校ではありませんが、2026年度から明治大学の系列化で校名を「明治大学付属世田谷」に変更して共学化し、今回の中学入学生から内部推薦

が始まる予定で、生徒数の7割の内部進学が見込まれています。今年は午後入試を全廃、2月1日、4日、5日の午前のみ、3回とも2科4科選択で入試を行いました。以前は小規模な入試の学校で、丁寧な対応で応募者が増加、小規模を脱しましたが、明治大学の系列化で入試回数を減らしたにもかかわらず応募者は約4倍に増加、実際の受験者数も増えましたが、合格者数は少ししか増えていません。出題は少し難化させると事前に公表されていましたが、それでも合格最低点は上昇、7割を超える回次もありました。難化というよりも、昨年までとは別の学校と考えてください。

獨協は併設大学がありますが、附属校カラーはほとんどありません。獨協医大への推薦枠が目立っていますが少数です。一昨年、2月1日午後に入試を新設して各回次合計の応募者数は一気に増加、昨年も各回次合計の応募者数は増えましたが、今年は減っていて、人気は一段落です。実際の受験者数も減りましたが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率は緩和しました。合格最低点は2月1日午前の1回が上がっていて、他の回次は昨年並みです。昨年とは逆の動きで、出題内容の調整があったのかもしれませんが、全体的には、あまり難度はあまり変わっていないようです。

聖学院はレゴを使ったものづくり思考力入試などで有名です。併設大学がありますが、基本的に進学校です。今年は曜日の関係での帰国生入試の日程変更のほか、2月の入試では2日午後のM型思考力入試をデザイン思考力入試に改称、4日午前のグローバル思考力入試をオンリーワン表現力入試に改称して内容も変更、定員配分も一部変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と増加が続き、今年も増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は絞っていて、平均の実質倍率はアップしています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、少し難化したと思われます。

純粋な進学校では、高輪の各回次合計の応募者数は、一昨년이前年に続く増加、昨年は減っていましたが、今年再び増加しました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数の増加は僅かで、平均の実質倍率はアップしています。2月4日のCは昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなさそうですが、他の回次は上がっていて、少し難化したようです。

佼成学園はグローバルコースと一般コースの2コース制です。今年は曜日の関係で4回実施した帰国生入試の日程をそれぞれ1日ずつ前倒しにしています。各

回次合計の応募者数は一昨년이前年並み、昨年、今年と増加が続きました。志望順位が高い受験生、併願受験生とも増えています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率はアップしています。合格最低点は2月1日午前の適性検査型が下がっていますが、出題内容の影響でしょう。他の回次は昨年並みですから、難度自体はあまり変わらないものの、ボーダーライン付近がかなり厳しくなった入試だったようです。

特選・中高一貫の2コース制の京華は、曜日の関係で帰国生入試の日程を1日前倒ししています。各回次合計の応募者数の増加が続いていて、今年も少し増えました。説明会で難しくなるかも、といった情報が流れたこともあって、大幅な増加は避けられています。ただ、実際の受験者数は増加したのに合格者数は絞っていて、平均の実質倍率はアップしています。各回次の合格最低点は適性検査型の特選が上がっているほかは、概ね昨年並みですが、第一志望の受験生は大切にしたい観点から2月1日の入試は昨年並みの難度だったと思われます。ただ、他の回次は出題難度が少し上がっている可能性もあって、2日以降は2つのコースとも少し難化しているかもしれません。

足立学園は、昨年は入試回数を削減して各回次合計の応募者がかなり減りましたが、今年第一志望生のみ志入試だけだった2月1日午前と、さらに2日午前に一般入試を、2日午後と5日午後に特選入試を、1日午後に適性検査型を追加、定員配分の見直しなども行いました。一旦は併願受験生よりも志望順位が高い受験生に来てほしい、という方針にしたものの、併願受験生歓迎に戻った変化です。入試増設が功を奏して各回次合計の応募者数は昨年の2.7倍に増加しました。実際の受験者数、合格者数も増加しています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度面はあまり変わっていないようです。

3. 女子校

<難関校~中上位校>

女子御三家の桜蔭は、一昨년이前年に続いて応募者が少し増えていて、昨年は少し減るといって、安定した人気が続いていましたが、今年も増えました。今年、女子は昨年と同じく全体的に安全志向が強い学校選択が目立ちましたが、桜蔭だけは別で、挑戦志向の受験生が目立っています。ただ、近年同校に合格しても、迷った末に千葉県の大塚幕張を選ぶ受験生も増えてい

て、桜蔭の単独人気、ということではなさそうです。合格最低点は未公表ですが、今年も補欠を出して、難度に変化はなさそうです。

女子学院の応募者数は隔年的に変化していて、今年も順番通り減っています。実際の受験者数も減って合格者数は昨年並みですから、実質倍率は少し緩和しました。同校も合格最低点は未公表ですが、もともと高水準の難度なので、少々実質倍率が緩和しても入り易くなったわけではないでしょう。御三家のもう一校、雙葉は、一昨年は応募者が少し減って、昨年は前年並み、今年も少し増えました。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は上がっていて、出題内容の影響はありますが、やや難化したかもしれません。

御三家に続く豊島岡女子は、2022年度から高校募集を停止、完全一貫校へ移行しています。各回次合計の応募者数は一昨年がやや減っていて、昨年は前年並みですが、今年も再び減っています。各回次とも減っていますが2月3日午前の2回は小幅の減少です。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は2日午前の1回が昨年並みだったものの、2回と4日午前の3回は少し増えています。合格最低点は各回次とも昨年並みですから、難度に変化はなさそうです。

白百合学園は、一昨年は帰国生入試と一般入試の合計の応募者数が前年並み、昨年は減っていて、今年も少し減っています。帰国生入試は実際の受験者数、無合格者数が昨年並み、一般入試は実際の受験者数が少し減り、合格者数はやや増えました。合格最低点は帰国生入試、一般入試とも概ね昨年並みで、難度面は特に変化はなかったようです。鷗友学園は、一昨年は2月1日午前の1回、3日午前の2回とも応募者が増加、昨年はどちらも前年並みで、今年も1回がやや減、2回は少し増えて合計では昨年並みです。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は1回、2回とも昨年とあまり変わらない人数です。合格最低点はどちらも少し下がっていて、出題内容との関係はありますが、やや入り易くなったかもしれません。

学習院女子は、曜日の関係で帰国生入試の日程を1日繰り上げました。各回次合計の応募者数は一昨年に続いて少し減っていて、昨年は少し増えましたが、今年も再び12月の帰国生、2月1日午前のA、3日午前のBとも減っています。実際の受験者数も減っていて、Aは合格最低点が下がりました。出題内容との関係はありますが、やや入り易くなったかもしれま

せん。Bは昨年並みで、補欠を出したこともあって、難度に変化はなさそうです。

立教女学院は12月の帰国生入試の定員を若干名に変更しました。一昨年は帰国生の応募者が少し減ったものの、一般は前年並みの応募者数、昨年は両方とも少し減っていて、今年も帰国生が少し減り、一般は増加しました。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は帰国生、一般とも昨年並みです。一般の合格最低点は少し下がっていますが、出題難度の関係でしょう。難度に変化はなさそうです。なお、同校は2025年度(2024年度ではありません)から、12月の帰国生入試を廃止して、帰国生も一般入試を受験するように変更する予定です。

東洋英和の各回次合計の応募者数は、一昨年が少し減って、昨年も減少しましたが、今年も増加しています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は2月1日午前のA、3日午前のBとも昨年並みで、平均の実質倍率は少し上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、やや難化したかもしれません。頌栄女子学院は曜日の関係で12月の帰国生入試の日程を変更、英語に2科を追加した選択科目を新設しました。一昨年は各回次合計の応募者数は少し増加、昨年は少し減少と、比較的安定した応募者数でしたが、今年も減りました。減少の中心は2月5日午前の2回で、安全志向と早じまい傾向の強まりから、遅い日程まで挑戦する受験生が減っています。実際の受験者数も減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1回が昨年並みで難度に変化はなさそうですが、2回は下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。

普連土学園は、入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年に前年並み、昨年は少し増えていて、今年も減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は2月1日午前と、1日午後の算数1科入試が下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。2日午後と4日午前は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

大妻は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年にやや増えて、昨年は少し減り、今年も減りました。2月1日午前の1回はほとんど減っていませんから、併願受験生が少し他校に流れたのでしょうか。5日午前の4回は合格最低点が下がっていて、出題内容との関係はありますが、

少し入り易くなったようです。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなかったでしょう。

立教系列校の香蘭女学校は、一昨年、昨年と2月1日午前の1回、2日午後の2回とも応募者が小幅も含めて減っていました。2019年に2回入試に移行して大人気になりましたが、その人気が一段落していました。しかし今年は1回が少し増えて、2回はかなり増えています。実際の受験者数は1回、2回とも増加、1回は合格者数が増えています。2回は昨年並みでした。1回の合格最低点は昨年並みで2回は少し下がっていますが、出題内容との関係でしょう。どちらも難度はあまり変わっていないようです。なお、1回は長い間2科4科選択でしたが、2024年度から4科のみに変更される予定です。

＜中上位校～中堅前後の各校＞

東京女子学園と目黒星美学園は共学化して、それぞれ「芝国際」「サレジアン国際学園世田谷」に校名を変更しました。男女校の項をご覧ください。

東京女学館は一般学級・国際学級の2コース制です。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更、一般入試は一部の定員配分を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と少し減っていて、今年も若干ですが減っています。ただ、実際の受験者数は増えていて、合格者数は逆に絞っています。2月1日午後の1回は合格最低点が上がっていて、やや難化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

共立女子は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。一昨年、昨年と、それまでと変わって各回次合計の応募者数が減りましたが、今年は少し増えました。ただ、実際の受験者数、合格者数は少し減っています。2月2日午前は合格最低点が少し下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みの合格最低点で、全体に難度は昨年並みだったようです。

品川女子学院は、曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや減り、昨年は前年並み、今年は増えました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は2月2日午前の2回が少し上がっています。やや難化したかもしれません。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。富士見は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年前年に続く

増加、昨年は前年並み、今年は少し減っています。実際の受験者数、合格者数も少し減りました。ただ、2日午後の算数1科入試は昨年並みの合格最低点でしたが、他の回次は上がっていて、少し難化したようです。応募者の減少も難化が見込まれたからでしょう。

山脇学園は曜日の関係で11月の帰国生入試の日程を変更したほか、一部の回次の定員配分を変更しています。各回次合計の応募者数は昨年までの3年間増加が続き、今年もやや増えて各回次合計で3,000名を超えました。実際の受験者数も少し増えましたが、合格者数はやや減っています。合格最低点は概ね昨年並みで、難度自体はあまり変わっていないようですが、ボーダーラインが厳しい入試だったようです。恵泉女学園はプロテスタント校で、今年は2月1日午後の1回の帰国生枠を廃止し、各入試で帰国生は考慮するように変更しました。コロナ禍で帰国生が減少傾向ですからしかたがないでしょう。各回次合計の応募者数は、一昨年は減少、昨年は前年並み、今年は少し増えています。実際の受験者数、合格者数も少し増えている、合格者数は昨年並みです。合格最低点は1回が昨年並みで難度に変化はなさそうですが、他の回次は少し上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれません。

田園調布学園は曜日の関係で帰国生入試日程を変更、帰国生入試の科目も変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年は減少、昨年は前年並みで、今年は増えました。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は昨年並みで、2月1日午前の1回は合格最低点が上昇、2日午前の2回も上がっていて、少し難化したようです。1日午後の算数入試と4日午前の3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

大妻中野はアドバンスト、グローバルリーダーズの2コース制です。今年は曜日の関係で11月と12月の帰国生入試をそれぞれ1日ずつ前倒しにしました。各回次合計の応募者数は一昨年前年に続いて減りましたが、昨年、今年と増加が続いています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は受験者数ほどは増えておらず、平均の実質倍率は上がっています。2月2日午後の3回と4日午前の4回の2科は合格最低点が下がっていて、4回の4科は昨年並みですが、出題難度との関係でしょう。1日午前の1回と1日午後の2回は上がっていて、全体的に少し難化したかもしれません。

昭和女子大附属はスーパーサイエンス、グローバル、

本科の3クラス制です。今年は帰国生1回を曜日の関係で1日前倒しとし、スーパーサイエンス1回を2月1日午前から午後に変更し、理科を科目から外しました。定員配分も一部変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年が前年に続いて増加しましたが、昨年、今年は減っていて、難化傾向から少し敬遠ムードが出たようです。同校は2019年にアメリカのテンプル大学ジャパンキャンパスが港区から昭和女子大学の敷地内に移転して、昭和女子大学だけでなく、中高とも様々な連携の取り組みが行われることになったことで、大人気になっていました。実際の受験者数、合格者数も減っており、合格最低点は一部合格者数が少ない回次で上昇が目立つものがありますが、それ以外は概ね昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

三輪田学園は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日繰り上げたほか、一般入試は名称変更や一部の定員配分を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年並みでしたが、昨年、今年とかなり増えていて、この3年で8割も増加しています。実際の受験者数も大きく増えていますが、合格者数は増えているものあまり多くはありません。平均の実質倍率は上がりました。昨年難化した2月1日午前・午後の1回A・Bは昨年並みの合格最低点で、難度は変わっていないようですが、2日午前、3日午前の2回と3回は上昇していて、難化したでしょう。

跡見学園は、今年は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は2018年以降増加が続き、今年も増えています。増加の中心は2月1日午後と2日午後の特待入試です。合格最低点は、4日午前の英語コミュニケーションスキル入試と思考力入試が昨年並みだったものの、他の回次は少しずつ下がっています。出題内容との関係はありますが、受験生の学力層が少し変わったのかもしれませんが、難度面では少し入り易くなっている可能性があります。

カトリックの光塩女子学院は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は小幅ですが隔年的に増減していて、今年は減る順番でしたが、昨年にかけて少し増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は2月4日午前の3回は少し下がっていますが、出題内容との関係でしょう。1日午前と2日午前の1回、2回は昨年とあまり変わっていませんから、全体としては昨年並みの難度だったようです。

女子美術大付属は特に入試に変更点はありません。

一昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続きましたが、昨年は前年並み、今年は減っています。人気が一段落したようです。実際の受験者数も減りましたが、合格者数は昨年並みです。補欠は出ていますが、合格最低点は各回次とも下がっていて、少し入り易くなったようです。

実践女子学園は帰国生入試の日程を変更、2回実施していた志向表現入試を1回のみとし、2回実施している1教科の英語資格入試は、国語を国算からの選択に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と大きく増えていましたが、今年は若干減って、増加に歯止めがかかりました。実際の受験者数は昨年並みで、合格者数は少し減っています。昨年は合格最低点が公表されていないため、単純な比較はできませんが、難度はあまり変わっていないようです。

江戸川女子は国際コースと一般コースの2コース制で、国際コースは英検資格や英語特化入試、別途実施のチャレンジテストの結果で所属することができます。今年は入試に特に変更はありません。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と少し減っていて、今年も少し減りました。減少の中心は2月2日午前、3日午前で、他校併願受験生が少し減っているようです。実際の受験者数、合格者数も少し減っていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度も昨年並みだったようです。

十文字は曜日の関係で帰国生入試の日程を1日前倒ししました。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は前年並みで、今年は再び増加して段階的に人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は帰国生入試と2月2日午前の3回の4科、3日午後の得意科目選択が上がっています。帰国生入試は得点分布の関係、3回と得意科目選択は出題内容の関係で、難度はあまり変わっていないようです。他の回次は昨年並みの合格最低点ですから、学校全体の難度もあまり変わっていないようです。

附属カラーが強い日大豊山女子は、曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2月1日午後算数1教科入試を新設、一部の定員配分を変更しています。各回次合計の応募者数は、一昨年が前年に続いての増加、昨年は減っていて、今年は増えています。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は少し減らしています。合格最低点は2月1日午前の2科4科入試が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年とあまり変わっておらず、全体的には昨年並

みの難度だったようです。

プロテスタント校の女子聖学院は、オンラインの帰国生入試を新設、曜日の関係で来校型の帰国生入試の日程を変更したほか、2月1日午後の入試をスカラシップ入試に位置付けるなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年まで少しずつ減っていましたが、昨年は増加、今年は昨年並みです。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数は昨年並みです。合格最低点は各回次とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度は昨年並みでしょう。

玉川聖学院もプロテスタント校で、今年は曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しとし、一般入試は一部の回次の定員配分を変更しました。各回次合計の応募者数は昨年まで隔年で増減していて、今年は減る順番でしたが、昨年に続いて増加して人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、2月1日午前の1回の4科と1日午後の2回は合格最低点が上がっています。1回の4科は出題内容との関係でしょう。1回自体の難度は昨年並みで、2回は少し難化したようです。今年も一部しか合格最低点が公表されていませんが、ほかの回次もやや難化したかもしれません。

麴町学園女子はダブルディプロマ(同校と海外の高校の2つの高校卒業資格が同時に取れるプログラム)を実施しています。今年は曜日の関係での帰国生入試の日程変更や、2月6日午前入試を5日午前に前倒しにするなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は減っていましたが昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は受験生の増加ほどは増えていません。平均の実質倍率は少し上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、やや難化したかもしれません。トキワ松学園は曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数は、昨年までの3年間増加が続きましたが、今年も増えて人気が上がっています。実際の受験者数や合格者数も増えていますが、合格最低点は一部の回次を除いて下がっています。出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。

文京学院大女子は科学実験プレゼン入試を探究プレゼン入試に改称、この入試と英語インタラクティブ入試は、2回設定していたものを1回にまとめました。各回次の定員配分も一部変更しています。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は増えて、今年は減っています。実際の受験者数、合格者数も減って

いますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

和洋九段女子は、グローバルコースと本科コースの2コース制です。今年は11月の帰国生入試日程を曜日の関係で変更、2月2日午前の特待入試に一般入試を併設するなどの変更があります。各回次合計の応募者数は一昨年が前年に続く増加、昨年は減り、今年もやや減っていますが、昨年並みと言ってよいでしょう。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者数は増えています。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者が少ないことから、各回次の難度は昨年並みでしょう。

京華女子は帰国生オンライン入試を新設、曜日の関係で既存の帰国生入試の日程を変更したほか、2月3日午前入試を午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年も少し増えましたが、今年は大きく増えています。同校の教育内容への人気だけでなく、2024年度からの移転・新校舎も人気の理由でしょう。新校舎は男子校の京華と同じ敷地で、女子校と男子校はそのままですが、共用する設備もできます。学校としては別扱いでも、国学院久我山や桐光学園のような、男子部女子部の学校と同じように、共学校と別学校の、それぞれのいいところを兼ね備えた学校に変化していく予定です。こうしたことが同校への期待として表れたのでしょうか。合格最低点は上下いろいろ見られますが、不合格者が少ないため、難度はあまり変わっていないようです。なお、現在の校舎は1933年建築で、今年で90年の貴重なものですが、移転後も活用していくとのこと。

東京家政大附属は国際バカロレアの中等教育プログラム(MYP)の実施校で、Eクラスとiクラスの2コース制で、今年は2月1日午後の適性検査型奨学入試を午前に移し、2日午前に入試を新設、2日午後と3日午後を1教科に変更、10日午前入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は増加、今年も少し増えました。実際の受験者数は少し減って、合格者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度面ではあまり変化がなかったようです。

佼成学園女子は帰国生入試の日程、回数の変更や、一般入試では英語インタビューの日程変更、2月5日午後や6日午前入試を取りやめて4日午前に追加、特待の増設などの変更がありました。各回次合計の応募者数は昨年まで3年間増加が続きましたが、今年は

減っていて、人気一段落です。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点の一部を除いて昨年とあまり変わっていません。難度は昨年並みだったようです。

中村は、曜日の関係で帰国生入試を 1 日前倒しし、2 回実施していたポテンシャル入試を 1 回にまとめ、自己表現型のエクスプレス入試とともに日程を見直すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は 2019 年以降増加が続き、今年も増えました。人気が上がっていて、実際の受験者数や合格者数も増えていきます。本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、難度はあまり変わっていないようです。富士見丘は曜日の関係で帰国生入試の日程を 1 日前倒ししました。各回次合計の応募者数は昨年まで隔年で増減していて、今年は減る順番でしたが、昨年に続いて増えていて、人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていきます。本稿作成時点で合格最低点は未公表ですが、不合格者が少ないこともあって、難度は昨年並みでしょう。

神田女学園はダブルディプロマ(海外高校の卒業資格も同時取得)を進めて、イメージが変わってきた学校です。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、2 月 3 日午後入試を 5 日午後に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は 2020 年まで増加が続き、一昨年、昨年と前年並みが続きましたが、今年は再び増えて段階的に人気が上がっています。実際の受験者数は少し減って、合格者数は昨年並みです。合格最低点は下がっている回次も見られますが、もともと不合格者が少ないことから、難度はあまり変わっていないようです。

東京家政学院は 2 月 1 日午後 SDG s 入試を 10 日午前に移し、2 日午後の教科入試を 1 教科として、英検資格入試の内容などを変更しました。以前は応募総数 200 名に達しない小規模な入試が続いていましたが、一昨年、昨年と増加して小規模を脱しました。今年もさらに増えています。実際の受験者数、合格者数は昨年並みで、合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者が少なく、難度面はあまり変わっていないようです。

カトリックの聖心女子は中学での募集を帰国生のみとしていることもあって、今年も小規模な入試でした。難度も変わっていないようです。愛国、川村、北豊島、国本女子、淑徳 SC、聖ドミニコ学園、瀧野川女子学園、東京女子学院は例年小規模な入試が続いて

いる学校です。入試科目などに変更がある学校もありますが、今年も小規模な入試です。ただ、そのような中でも愛国や淑徳 SC は応募者が増えています。成女学園は本稿執筆時点で入試結果未公表です。

4. 男女校

<難関校～中上位校>

国立の筑波大附属は、一昨年は男女とも応募者が増えて、昨年は男子が減って女子は増加が続きました。今年は女子が減って男子が増えています。合格最低点は男女とも下がっていますが、出題難度や得点分布の関係でしょう。もともと比較的高い倍率ですから、難度はあまり変わっていないようです。

東京学芸大世田谷の応募者数は、一昨年は男子の応募者が減少、女子もやや減っていて、昨年は男女とも少し増えて、今年は男子が少し減り、女子は昨年並みでした。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は男女とも昨年より増えています。合格最低点は公表されませんが、補欠を出していることから、男女とも難度は変わっていないようです。

東京学芸大国際は一昨年まで応募者数に隔年現象が見られた学校ですが、昨年は減る順番のところ一昨年並み、今年は減っていて、減る順番が 1 年遅くなりました。今年は英語中心の A 方式、国内生向けの B 方式とも減っていますが、A 方式の減少が大きく、コロナ禍で帰国生が減った影響が見られます。実際の受験者数も減りましたが、合格者数は昨年並みで、少し入り易くなったかもしれません。

お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。一昨年から入試が教科横断型の検査 I～検査 III に変更されています。適性検査とは呼びませんが、適性検査タイプです。一昨年まで 3 年間、女子の応募者が減っていましたが、昨年、今年と増加が続いています。一昨年の入試問題変更に受験生側が順応してきて、人気が復活してきました。男子は小規模で、同水準の応募者数が続いていましたが、やはり一昨年は敬遠で応募者数が減っていて、昨年、今年と増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は増えていません。合格最低点はもともと公表されませんが、難化したでしょう。

私立各校は大学附属校カラーの強い学校から。慶應義塾中等部は教育システムの変更に伴って 1 クラスの定員を見直すことになり、男子の定員を 20 名減らしました。女子は変更ありません。応募者数は、一昨年は

男女とも増加、昨年は前年並みでしたが、今年は男子が減少、女子も少し減っています。男子は定員削減が響いていますが、学力上位の受験生の進学校志向も影響しています。合格最低点は公表されませんが、1次合格者に2次を行う2段階選抜で、補欠も出ていますから、難度は昨年と大きくは変わっていないようです。

青山学院はプロテスタント校で、一昨年は男子の応募者が減っていましたが、昨年、今年と前年並みが続いています。女子は一昨年は前年並み、昨年は減っていて、今年は増えています。実際の受験者数も同じ傾向で、合格者数は昨年並みで、今年も男子が多くなっています。合格最低点は昨年よりやや下がっていますが、出題内容の影響でしょう。今年も補欠を出していますから、男女とも難度は変わっていないようです。

附属校カラーが薄かったり、純然たる進学校では、渋谷教育学園渋谷は、各回次合計の応募者数が一昨年から増加が続き、今年も増えています。昨年は女子の増加が目立ちましたが、今年は男子が増えていて女子はやや減りました。実際の受験者数は男女とも昨年並みで、女子の欠席は減っています。合格者数も昨年とあまり変わっていません。合格最低点は2月1日の1回は昨年並みですが、2日の2回と5日の3回は上がっていて、少し難化したようです。

広尾学園は医進サイエンス、インターナショナルAG、同SG、本科の4課程で、曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されています。各回次合計の応募者数は一昨年はやや増加、昨年は若干減、今年は増えています。特に一昨年は後述の姉妹校、広尾学園小石川がスタートしたことで受験生が分散し、入り易くなるという見通しもありましたが、実際にはそんなことはない応募者数でした。実際の受験者数も増えていて、合格者数もやや増えています。合格最低点は2月2日午後の医進サイエンスがやや上がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次も若干の上下はありますが、総じて昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

広尾学園小石川は、募集を休止していた村田女子が共学校として一昨年募集を再開した学校で、高校は商業色が強かった村田女子高校が母体ですが、広尾学園と教育連携を実施して、「広尾学園と同等、同質の教育内容」を看板にしています。インターナショナルAG、同SG、本科の3つの課程がありますが、キャパシティの関係で医進サイエンスは設置していません。同校も今年は帰国生入試の日程を曜日の関係で変更、定員配分も一部変更しています。一昨年のスタート時は、

各回次合計で3,801名の応募者があり、都内共学校トップ、首都圏全体でも埼玉県の栄東、開智に続く3位で、大変な人気で、昨年はさらに増えて4,000名を超えました。こうした過熱した人気で、難化したこともあり、今年は大きく応募者数が減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みです。多くの回次で合格最低点下がっていますが、入り易くなったというよりも昨年の得点率で7割台の回次が多く、中には8割という回次もあったので、正常化したと考えた方がよいでしょう。「ミスをしなさいか」で合否が決まっていたものが、実力をきちんと評価する入試になった、ということです。

開智日本橋はGLC、DLC、LCの3コース制で、国際バカロレアの教育を実践する学校です。今年には特に入試に変更点はありません。2015年に日本橋女学館が埼玉県の開智の系列校になって共学化、校名変更以来高い人気が続く、一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が増えていましたが、今年は減っています。難化で少し敬遠される面も見られます。実際の受験者数、合格者数も減っていて、合格最低点は昨年が公表されていないため、比較できませんが、あまり入り易くはないようです。

東京農大第一は入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は昨年まで3年間増加が続いていましたが、今年は少し減りました。人気が一段落したようです。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率は少し緩和しています。合格最低点は2月1日午後の1回の国算選択の女子と、2日午後の2回は男女国算、算理選択とも下がっていて、1回のその他と4日午前の3回は昨年並みです。1回の国算選択の女子は得点分布の関係で、3回ともども難度は変わっていないでしょう。2回は少し入り易くなったようです。

国学院久我山は男女別学です。同校も曜日の関係で帰国生入試の日程を1日前倒しにしています。各回次合計の応募者数は一昨年は減少、昨年は前年並み、今年は増えて人気を上向いています。ただ、2月1日午前の1回は男女とも昨年並みですから、併願受験生が増加の中心です。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は少し絞っていて、平均の実質倍率は上がっています。2日午前の2回の男子は合格最低点上がり、5日午前のST3回は男女とも下がっていますが、出題内容の影響でしょう。ST選抜、一般各回次とも難度はあまり変わっていないようです。

東京都市大等々力はS特選と特選の2コース制です。今年は2月4日午前のAL入試の内容を見直し、一部の定員配分を変更するなどしています。各回次合計の応募者数は、一昨年は減少、昨年は前年並みで、今年はかなり増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っていて、平均の実質倍率はアップしています。合格最低点は2月1日午後のS特選1回が少し下がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みで、難度面はあまり変わらないものの、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

三田国際学園は昨年入り易かった本科の募集を停止、インターナショナルサイエンス(以下ISC)、インターナショナル(以下IC)、メディカルサイエンステクノロジー(以下MST)の3コース制で、MSTは2年次からの編成となっています。今年は曜日の関係での帰国生入試の日程変更のほか、ISCの英語入試の作文を2科に変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減っていて、昨年は小幅ですが増加、今年は微減ですが昨年並みと言ってよいでしょう。人気は安定しています。ただ、欠席が減って実際の受験者数は増加、合格者数は絞っていて、平均の実質倍率は上がっており、合格最低点は2月1日午前のICの4科と3日午後のMST、4日午後のISCが昨年並みだったものの、他の回次や科目選択は小幅も含めて上がっている回次が目立ちます。平均の実質倍率が上がった分、少し難化したようです。

芝浦工大附属は2017年に板橋から豊洲に移転して人気は上がり、一昨年男子校から共学化して、さらに人気は上がり各回次合計の応募者が増えました。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しています。この間、難化が進んだことで昨年、今年と、応募者数が減っていて、今年の減少の中心は2月1日午前の男子です。難度で断念した受験生も多かったようです。合格最低点は2月2日午後の特色入試が下がっていますが、出題内容の関係でしょう。他の回次は小幅ですが上がっていて、今年もやや難化したようです。なお、同校は2024年度入試から4日午前の3回を取りやめる予定です。

<中上位校～中堅前後の各校>

まず話題の2校から。芝国際は東京女子学園が共学化、校名を変更する学校です。国際生コースアドバンス(英語上級者、以下AD)、同コア(英語初学者、以

下CO)、本科II類、同I類の4課程での募集です。本科II類とI類は難度や目標大学の違いで、II類が上位です。入試は大きく変更され、帰国生入試のほか、ADは2月2日午後に英算国+面または英算+面(面はどちらも英+日)、COと本科II・I類は1日午前に4科と適性検査型、1日午後に2科4科選択と算数1科、算理2科、2日午後と3日午後に2科と算数1科、5日午後に2科と特色面接(自由に自己PR)を実施しました。各回次合計の応募者数は帰国生も含めて4,681名という大変な応募者数でした。都内での新設開校や共学化等での大変更の初年度の応募総数は、一昨年の広尾学園小石川の3,801名が今までの最多記録でしたから、これも大きく上回りました。平均の実質倍率は7倍を超えていて、特に第一志望が多い2月1日午前は本科I類でも実質4.5倍の高倍率で、今までの東京女子学園とは比較にならない難度だったでしょう。

サレジアン国際学園世田谷は目黒星美学園が共学化、校名を変更しています。昨年、共学化した系列校のサレジアン国際学園と同様、インターナショナルアドバンス(以下AD)、同スタンダード(以下ST)、本科の3つの課程の募集です。入試は大きく変更され、帰国生入試のほか、ADは2月1日午前・2日午後・5日午前に英筆記+英エッセイ、本科とSTは1日午前・午後2科4科、2日午後に4科、3日午後に4科から2科選択または思考力問題、5日午前に4科の入試を行いました。各回次合計の応募者数は昨年の約7倍と大きく増えている、平均の実質倍率は2.5倍でした。きちんとした難度は大手公開模試の追跡調査の集計を待つこととなりますが、難化したことは確かです。

他の学校は、比較的內部進学率が高い大学系の学校から見ていきます。成城学園は回次ごとの定員配分や帰国生入試の日程に変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し増えている、昨年は前年並み、今年は増えている、段階的に人気が上がっています。一般入試は2月1日午前の1回の男子の増加が目立ちますが、女子は1回だけでなく3日午前の2回も増えています。実際の受験者数、合格者数も増えている、合格最低点は1・2回男女とも昨年並みですから、難度は変わっていないようです。

日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い日大第二は入試に特に変更点はありませぬ。一昨年は各回次合計の応募者数が少し増えていましたが、昨年は減っていて、今年も少し減っています。日大系の他校に受験生が流れたのかもしれませんが、実際の受験者数

も減っていて、合格者数は昨年並みですから実質倍率は今年も緩和していますが、2月1日午前の1回の合格最低点は昨年並みで、難度は変わっていないようです。3日午前の2回は下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。

日大第一は日大第二より附属カラーが強い学校で、同校も入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年まで増加が続いていましたが、昨年は前年並み、今年は減っていて、人気は一段落です。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は増加、平均の実質倍率は緩和しています。合格最低点は2月1日午前の4科1回と5日午前の2科2回が昨年並み、1日午前の4科2回が上がり、3日午前の2科1回は下がっています。ちょうど昨年とは逆の動きで、出題難度の調整が行われたようです。各回次とも難度に変化はなさそうです。

目黒日大は2019年に日出が日大の準付属校になって校名を改称した学校です。今年には特に入試に変更点はありません。日出のときは入りやすい小規模な入試の学校でしたが、各回次合計の応募者数は増加が続き、今年も増えて人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、2月1日午後の算理入試の合格最低点が上がり、やや難化したかもしれません。4日午後の特待入試は下がっていますが、出題内容との関係でしょう。難度に変化はなさそうです。他の回次は概ね昨年並みですが、僅かずつ上がっている回次もあり、全体的にはやや難化したかどうか、と言ったところでしょう。

東海大高輪台は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は3年間増加が続きましたが、昨年は少し減っていて、今年は再び少し増えました。実際の受験者数は増えていて、合格者数は昨年並みですから、実質倍率は少し上がっています。2月3日午前の2回は昨年並みの合格最低点ですが、1日午前の1回と5日午前の3回は少し上がっていて、やや難化したかもしれません。

次に附属ではない学校や附属カラーの薄い学校を見ていきます。国立の東京学芸大竹早は、一昨年は男子の応募者数が前年並み、女子は減っていて、昨年は男子が減って女子は増えていました。今年は男女とも減っています。実際の受験者数も男女とも少し減っていますが、合格者数は昨年並みです。補欠を出していることもあって、難度はあまり変わっていないようです。

双子の研究教育で知られる国立の東大附属は、推薦入試で書類選考を実施し、書類選考の合格者が面接や適性検査を受検する方式で、一般入試は適性検査と実技です。一昨年は推薦・一般男女とも応募者が減っていて、昨年は若干の増減はありますが、推薦・一般の男女とも前年並み、今年是一般の女子の応募者数が昨年並みだったものの、推薦の女子と一般の男子は減少、推薦の男子も小幅の減少でした。合格最低点は公表されていませんが、推薦、一般とも難度が変わるほどの応募者数の変化ではなく、昨年並みの難度でしょう。

淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集です。今年には曜日の関係での帰国生入試の日程変更、一般入試での英語資格入試を取りやめて、2月5日午後に東大セレクト入試を追加、一部の定員配分を変更しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が減っていて、昨年は前年並みでしたが、今年は増えました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、東大セレクトは昨年並みの難度、スーパー特進は少し難化したと思われます。

青陵は帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者数は、昨年まで隔年的に変化していて、今年が増える順番でしたが、少し減っています。実際の受験者数も少し減りましたが、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は2月1日午後の1回Bが下がっていますが、出題内容との関係でしょう。昨年並みだった1日午前の1回A、2日午前の2回Aともども難度に変化はなさそうです。2日午後の2回Bは上がっていて、こちらは最終回入試としては早い日程であることから、少し難化したかもしれません。

東洋大京北は2月1日午前、2日午前、4日午前を2科4科選択から4科のみに変更しました。こうした変更を行うと敬遠ムードが生まれて各回次合計の応募者数は減るのが一般的ですが、やはり大きく減りました。実際の受験者数も大きく減っていて、合格者数は少し減っていますので、実質倍率は緩和しています。合格最低点は4日午前の哲学教育思考・表現力入試が昨年並みだったほかは2科のままで残った1日午後の2回も含め、どの回次も下がりました。ただ、今回の入試変更を機に、出題難度も見直しがあったようで、今までより得点しにくくなった面もあり、難度面では目立って入り易くなったわけではありません。

グローバル対応の教育で知られるかえつ有明は、曜日の関係で帰国生入試の日程を変更したほか、国際

生・一般入試とも思考力系の入試ではグループワークや個人の振り返りを実施するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は昨年まで増加が続きましたが、今年は減っていて、人気が一段落です。実際の受験者数、合格者数は少し減っていて、本稿執筆時点では合格最低点が公表されていませんが、難度は昨年並みだったようです。

宝仙学園理数インターは自己アピール型やアクティブラーニング型の入試が多く、その種類は多彩です。今年は曜日の関係で帰国生入試の日程が変更されているほか、一般入試では定員配分が一部変更されています。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年少し増えていましたが、今年は減っています。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は増えていて、平均の実質倍率は緩和しています。本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、少し入り易くなったかもしれません。

順天も曜日の関係で帰国生入試を1日前倒しにしました。各回次合計の応募者数に隔年現象が見られた学校で、順番通りなら今年は減るはずですが、昨年に続いて増加して人気が上がっています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率はアップしています。合格最低点は2月1日午前の1回Aと2日午前の2回Aが上がっています。志望順位が高い受験生が多いこの2つの回次が少し難化したようです。1日午後の1回B、2日午後の2回B、4日午後の3回は昨年並みで、こちらは難度に変化はなさそうです。

駒込は、以前は国際先進と本科(AGS)の2コース制でしたが、現在国際先進に一本化しています。今年は2月2日午後の算数入試を、算数または国語の1科選択入試に変更しました。各回次合計の応募者数は、2019年から増加が続いていて、今年も増えています。実際の受験者数も少し増えていますが、合格者は昨年に続いて今年も減っていて、平均の実質倍率は上がっています。例年合格最低点は未公表ですが、少し難化したかもしれません。

サレジオン国際学園は昨年星美学園が共学化、校名を変更してスタートしました。インターナショナルアドバンス(以下AD)、同スタンダード(以下ST)、本科の3つの課程の募集です。今年は曜日の関係で2回の帰国生入試を1日ずつ前倒しとし、2月2日午前に入試を新設、4日午後の入試を5日午前に移して、募集クラスや科目の変更、定員配分の変更がありました。

星美学園は小規模な入試の学校でしたが、各回次合計の応募者数は400名を超えて大きく増加、難化した入試でした。今年はさらに増加、受験生への浸透が進んでいます。実際の受験者数、合格者数も増加、合格最低点は公表されていませんが、さらに少し難化したようです。

募集休止中だった千代田女学園が昨年共学校として募集を再開した千代田国際は、実質的な新設2年目の入試でした。高校は武蔵野大学千代田高等学院です。各回次合計の応募者数は昨年の1.5倍以上に増加、順調に人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えています。本稿作成時点で合格最低点が未公表ですが、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。

文教大付属は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年はやや増加、昨年は少し減少と、近年隔年的に変化していて、今年は順番通り少し減っています。ただ、欠席が減って実際の受験者数は増加、合格者数は減らしていますから、実質倍率は上がっています。そのため、2月1日午後の2回と2日午前の3回は合格最低点が上昇、少し難化したようです。他の回次は昨年並みで、難度も変わっていないようです。

安田学園は、先進特待と総合(一般)の2コース制でしたが、総合コースの募集を停止しました。通常、このように入り易いコースの募集を停止すると応募者が減りますが、各回次合計の応募者数は昨年よりも少し増えていて、これで4年連続の増加です。人気の高さがわかります。実際の受験者数、合格者数は若干減っていて、合格最低点は2月1日午前が昨年の先進特待よりも上がっています。出題内容の影響は考えられますが、同校の志望順位が高い受験生の学力層が上がったのでしょう。1日午後は昨年も先進特待のみの入試で、こちらは合格最低点が下がっていますが、出題内容との関係でしょう。難度に変化はなさそうです。他の回次はいずれも昨年の先進特待並みの合格最低点で、南都に変化はなさそうです。学校全体では、総合コースを募集停止にした分、難化したこととなります。

淑徳巣鴨はスーパー選抜と特進の2コース制で、今年は曜日の関係で帰国生入試の日程が1日前倒しになっています。各回次合計の応募者数は4年間増加が続きましたが、今年は厳密には減っているものの昨年並みで、人気が一段落したようです。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は若干増えました。合格最低点は

2月4日午前の特進3回が下がっていますが、出題内容の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、全体として難度は昨年並みだったようです。

品川翔英は2020年に小野学園女子が共学化、校名を変更した学校です。今年は2月5日午前の6回の多様な2科選択を国算に統一したほか、各回次の一部の定員配分を変更しています。以前は小規模な入試の学校でしたが、共学化で各回次合計の応募者数は大きく増加、一昨年、昨年も大幅な増加が続きましたが、今年はやや減っていて、人気は一段落です。実際の受験者数は昨年並みで、合格者はかなり増えて、平均の実質倍率は下がりました。合格最低点は概ね昨年並みで難度は変わっていないようです。平均の実質倍率が下がったのに難化していない、ということは同校受験生の学力水準が上がったことを意味します。

多摩大目黒は特待特進と進学の2コース制です。入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は一昨年が大きく増加、昨年は前年並みで、今年も厳密には減っていますが、昨年並みと言ってよい応募者数です。実際の受験者数は少し減っていて、合格者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、併願受験生も多いので、難度は昨年並みでしょう。立正大立正は入試に特に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、2019年から昨年まで増加が続きましたが、今年は減っています。人気は一段落したのでしょうか。実際の受験者数も減っていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は、2月1日午前・午後、2日午前の入試では受験者数が少ない入試科目で上下が見られますが、得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。3日午前、5日午前は下がっていて、少し入り易くなったようですが、昨年は難化傾向でしたから難度が戻ったと考えた方がよいでしょう。

八雲学園は一部の回次の定員配分の変更のみです。各回次合計の応募者数は一昨年が減少、昨年は増加、今年は減少と隔年的に変化しています。実際の受験者数も減りましたが、合格者数は増えていて、実質倍率は下がっていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化はなさそうです。文化学園大杉並は日本とカナダ両方の高校卒業資格を取得できる「ダブルディプロマコース」を首都圏で最初に開始した学校で、2018年に女子校から共学化しました。今年は曜日の関係で帰国生入試を1日ずつ前倒しとしたほか、2月2日午後、3日午後の2回の英語特別入試を、英語

のみから英国または英算の選択に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年前年並み、昨年は増加しましたが、今年は減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格者数の減少は小幅で、平均の実質倍率は緩和しています。しかし合格最低点は各回次とも概ね昨年並みです。出題内容との関係はありますが、難度はあまり変わっていないようです。受験生の学力水準が上がったからでしょう。

城西大附属城西は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しています。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減っていましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていきます。合格最低点は一部に上下が目立つ回次も見られますが、得点分布の関係でしょう。全体的には昨年並みの難度だったようです。

郁文館はiP選抜、特進、GL特進、進学の4コース制で、今年は帰国入試の日程変更や、2月5日午前のiP選抜適性検査型を4日午前に移すなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、一昨年前年に続く増加、昨年は減少、今年は再び増加しました。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っていて、平均の実質倍率は上がっています。本稿執筆時点では合格最低点が未公表ですが、進学コースは難化しているようです。iP選抜、特進、GL特進も少し難化したかもしれません。

東京成徳大は、2月5日午前課題・論述の新タイプ入試「Distinguished Learner 選抜」を新設しました。「ディスティングウィッシュト」は、「優れた」「抜群の」といった意味で、こうした学習者を育成しようとする入試です。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年、今年と増加が続いていて、今年は特に大きく増えています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は各回次とも概ね昨年並みです。併願受験生が多いこともあって、難度はあまり変わっていないようです。

帝京大帝京は、一貫特進と一貫進学の2コース制です。2月2日午前の適性検査型または算数1科の入試を算数または国語の1科選択に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と少し減っていましたが、今年は増加に転じました。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は各回次とも昨年並みです。難度はあまり変わっていないようです。

桜丘は12月の帰国生入試を取りやめ、2月1日午後の英検入試を2日午前に移しました。各回次合計の応

募者数は増加が続いていましたが、特に一昨年、昨年は大幅に増えていて、人気が大きく上がっています。今年は学校側から合格基準点を引き上げるという告知があったものの、さらに応募者数が増えました。実際の受験者数もやや増えましたが、合格者数は昨年の4割と大きく減っています。合格最低点は本稿執筆時点で非公表ですが、かなり難化したと思われます。

目白研心は帰国生入試の一部の日程を変更したほか、2月2日午後と5日午後の算数選抜を5日午後のみとし、2日午後と3日午前に英検資格の入試を新設するなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は、昨年までの3年間増加が続き、今年もさらに増えて人気が上がっています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、不合格者が少ないこともあって、難度に変化はなさそうです。

共栄学園は特進、進学 of 2 コース制です。今年は2月1日の午前入試に4科を追加、7日午前に特待入試を新設、定員配分の各回次の見直しなどの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と減っていましたが、今年に入試増設の効果もあって増加しました。実際の受験者数も少し増えて、合格者数は増えています。2月1日午前の合格最低点は昨年並みですが、他の回次は下がっていて、特進コースは昨年並みの難度だと思われますが、進学コースは少し入り易くなったようです。

実践学園は昨年 from リベラルアーツ and サイエンスクラス (以下 LA&S) と在来クラスの2コース制になっています。今年は2月2日午前の教科型2回を2日午後に移しました。各回次合計の応募者数は、一昨年が減少、昨年は大きく増えて、今年 is 昨年並みです。ただ、欠席が減って実際の受験者数は増加しました。合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率はアップしています。合格最低点は教科型1日午前や2日後に移った教科型1・2回が上がっていて、特待入試などそれ以外は昨年並みですが、在来クラスは平均の実質倍率がアップしていますから、全体にやや難化しているようです。LA&Sは入試科目が作文と英作文ですから、難度のコメントは控えます。

日本工業大駒場は得意科目型など、多彩な科目選択の学校で、今年も入試日程ごとの選択科目配置、定員配分の見直しや、2月6日午前入試を取りやめるなどの変更がありました。もともと工業高校の併設中学校としてスタートした学校でしたが、進学校としての認知度が上がってきました。各回次合計の応募者数は

一昨年が前年並みだったものの、その前と昨年、今年 is 増加が続いています。実際の受験者数、合格者数も大きく増加、合格最低点は適性検査型が昨年並みだったものの、それ以外は上がっていて、少し難化したようです。

上野学園はアドヴァンストとプロGRESSの2クラス制で、さらに音楽専攻も選択できる体制でしたが、学力別のアドヴァンストとプロGRESSのクラス分けを一本化、2月1日午前入試で4科選択を復活、2日午前の自己表現入試を取りやめ、4日午前の特待チャレンジ入試を4科に変更するなどの変更点があります。各回次合計の応募者数は大きく減っていますが、2つのクラスの併願受験がなくなったためです。実際の受験者数、合格者数も同様に減っています。合格最低点は上下いろいろありますが、不合格者数は少ないため、難度面は昨年のプロGRESSとあまり変わっていないようです。

成立学園は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。合格最低点は2科4科選択の4科で上がっている回次が見られますが、出題内容との関係でしょう。不合格者が少ないこともあり、難度に変化はなさそうです。新渡戸文化は2月1日午前の2科入試を取りやめて、3回実施しているスピーチ・口頭試問の好きなこと入試のうち2回の日程を1日ずつ前倒しにするなどの変更点があります。小規模な入試が続いていましたが、昨年は大きく増加して小規模を脱しました。今年 is 少し減ったものの、小規模な入試には戻っていません。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者数は絞っています。合格最低点は例年未公表ですが、少し難化したかもしれません。

東京立正は2月13日午前4回を14日午前に移し、一部の定員配分を見直しました。小規模な入試が続いていましたが、今年 is 各回次合計の応募者数が増加、小規模を脱しました。実際の受験者数も増えていますが、スライド合格を含まない合格者数は絞っていて、レベルアップを図ろうとしています。難度面では奨学生はやや難化したかもしれません。一般の難度は昨年並みでしょう。

駿台学園、国士館、修徳、貞静学園、武蔵野、目黒学院は小規模な入試の学校です。入試にいろいろな変更点がある学校もあり、今年 is この中で貞静学園と目黒学院では各回次合計の応募者が増えていて、国士館と修徳は昨年並み、駿台学園と武蔵野はやや減って

ます。いずれも今年も小規模な入試でした。難度もあまり変わっていないようです。なお、東邦音大東邦と高校を併設していない清明学園は本稿執筆段階で入試結果未公表でした。

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

2 ページのグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・鷗友学園・女子学院・白百合学園
・豊島岡女子・雙葉・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属・広尾学園(医進サイエンス・インター)
- B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・成城・世田谷学園・東京都市大付属・本郷・明大中野・立教池袋
・大妻・学習院女子・香蘭女学校・頌栄女子学院・東洋英和・普連土学園・立教女学院・青山学院
・お茶の水女子大附属(女子)・開智日本橋・かえつ有明(特待)・国学院久我山(男女S T)・芝浦工大附属
・淑徳(東大セレクト)・東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京都市大等々力・東京農大第一・広尾学園(本科)
・広尾学園小石川・三田国際学園
- C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・高輪・獨協・日本学園・跡見学園(特待)・江戸川女子・大妻中野・共立女子
・恵泉女学園・光塩女子学院・品川女子学院・昭和女子大附属・聖心女子(帰国生のみ)・田園調布学園・東京女学館
・富士見・三輪田学園・山脇学園・お茶の水女子大附属(男子)・かえつ有明(一般)・駒込(特待)
・国学院久我山(男女一般)・淑徳(スーパー特進)・淑徳巣鴨(スカラシップ)・順天・成城学園・青稜・東京学芸大竹早
・東大附属・東洋大京北・日大第二・宝仙学園理数インター・安田学園
- D…足立学園(一般)・京華・佼成学園(一般)・聖学院・日大豊山・跡見学園(一般)・京華女子(特待)・麴町学園女子(特待)
・佼成学園女子(特待)・実践女子学園・十文字・女子聖学院・女子美術大付属・玉川聖学院・東京家政大附属
・トキワ松学園(特待)・中村(特待)・日大豊山女子・文京学院大女子・和洋九段女子(グローバル)
・郁文館(i P 選抜・特進・GL特進)・共栄学園(特進)・駒込(一般)・桜丘・サレジアン国際学園
・サレジアン国際学園世田谷・実践学園(特待)・品川翔英・芝国際・淑徳巣鴨(一般)・多摩大目黒・千代田国際
・帝京大帝京(一貫特進)・東海大高輪台・東京成徳大・日大第一・文化学園大杉並・文教大付属・目黒日大
・八雲学園・目白研心・立正大立正
- E…足立学園(志入試)・愛国・川村・神田女学園・北豊島・国本女子・京華女子(一般)・麴町学園女子(一般)
・佼成学園女子(一般)・淑徳SC・成女学園・聖ドミニコ学園・瀧野川女子学園・東京家政学院・東京女子学院
・トキワ松学園(一般)・中村(一般)・富士見丘・和洋九段女子(本科)・郁文館(進学)・上野学園・共栄学園(進学)
・国士舘・実践学園(一般)・修徳・城西大附属城西・駿台学園・清明学園・成立学園・帝京大帝京(一貫進学)
・貞静学園・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化・日本工業大駒場・武蔵野・目黒学院